

## チーム内研修(心エコー)やっています

今年度、心臓リハビリチームではSWOT分析にて課題（内部環境の弱み）として心臓超音波（以下、心エコー）検査画像に着目しました。解剖の基礎知識から壁運動・弁膜症など遭遇頻度の高い項目を取り上げて年間計画を立案し、循環器医よりお借りしたテキスト(下図)や新規購入した動画資料にて月1回程度の研修活動をしています(右図)。

心臓から全身へ血液を送り出す量や力（収縮能・心筋機能）や、心臓に血液を貯める力（拡張能・弁膜機能）等を知ること、適切な治療に繋がります。更に重症度や心臓の回復度合いを心エコー画像から

読み取り、心臓リハビリスタッフは安全かつ効果的な運動を指導し、希望する生活や再発予防、職業復帰などに応える事を目標として進めています。



傍胸骨左縁短軸像で大動脈弁の石灰化と二尖弁が確認される。この後、ドプラ法で圧較差・開口面積を推定し、大動脈弁狭窄症の重症度を評価・解説しています。



画像を見ながら学習している様子



## 足病変に対するのフットウェア介入

足の血管閉塞や糖尿病由来の爪・足の傷にかかわる病気をまとめて足病変と呼びます。当院では今年度、足の傷に対してリハビリスタッフが靴やサンダル等の履物の調整をする手順を整備し、対応しています。

足の裏タコやウオノメができた際、その部分に感染や血流障害を伴うことで潰瘍と呼ばれる治りにくい傷へと発展することがあります。足の傷を治癒させるためには患部に体重をかけたり、その周囲の皮膚が引っ張られたりこすれたりしないようにすることが重要ですが、立ち上がって体重をかけなければ足を含めて全身の筋力は低下すると言われています。

そこで、履き物に専用のフェルトを貼ったり装具を使用するなどして傷口に体重や刺激がかからないように調整します。このように足病変に対してのリハビリでは、傷の管理をしたうえで立ち上がりや歩行訓練を行い、筋力を保ちつつ傷を治癒させることが重要です。



踵に傷があり、体重をかけられない..



専用のフェルトを入れ、踵部分をくりぬき加工